



小さき群

救主降世2013年4月号 第82号

2013年度北海道教区宣教目標

『確かに未来はある あなたの希望が断たれることはない』

箴言23章18節

禁煙記

オーガスティン 橋本知樹

聖歌 第452番

神はわが力 わが高きやぐら
苦しめるときの 近き助けなり

1月中旬、毎年恒例となっている「人間ドック」
に行ってきました。
そう、(どうせ今年も去年と大して変わりはない)
と半ばタカをくくりながら・・・

と!胃カメラの検査の最中、先生「おっ!なんだ
これは?うーん・・・」何やら奥歯に物が挟まった
言い方。
更に心電図の検査票を見て先生曰く「いやーこれは
ちょっと・・・」と悲痛な面持ち。

(何よ何よ話が違っちゃないの、去年と同じレベル
にしといてよ。そんなに脅かさないでよ。)

さて、一通りの検査が終わり、先生のご所見「橋
本さんタバコ吸ってますか?」「ハイ吸います。」「一
日何本位?」「そうですねー、二日で3箱くらいかな
ー(一日30本)?」「どれくらいの期間?」「学生の時から、かれこれ
40年以上!」「橋本さん、何たってタバコは万病の元なんですよ。
血圧高いでしょ(確かに薬飲んでる・・・)胃潰瘍や
ったことあるでしょ?(ある・・・)

これね(といって胃カメラ結果を指しながら)こ
の場所にできるの珍しいんですよ。抓んで詳しい検
査してみないと・・・(・・・)

ああ、それから心電図ね、この波形はいつ心筋梗
塞でポックリ逝っても不思議じゃない状態だね。専
門医紹介するから精密検査してきてください。タバ
コはやめたほうがいいですよ。奥さんも心配してま
したよ・・・

(ん?何々?女房の差し金か?タバコやめろって?)

今まで何度「タバコやめなさい!」「やめたほうが
いい!」と言われ続けてきたことか。でも本気でや
めようと思ったことが一度もなかった私でした。

「肉体的には悪いかもしれないが精神衛生上はスト
レスの解消になるのだ・・・フフ」

などと妙な屁理屈をこねながら、真剣にやめよう
と自分に言い聞かせたことなど一度もありませんで
した。

でもまあ、体に良くないことだけは確かだし再検
査して何でもないとわかれば、いつでもまた吸うこ
とができるのだから、それまでの間休んでみるか。

(自信がないので止めたとは未だに言えません。)

あれから55日。イエス様も荒野で受けられた悪魔
の試練さながらに、吸いたい欲求と闘う毎日が続い
ています。

「人はパンのみにて生きるに非ず」
「主なる神を拝し、ただ神にのみ仕えよ」
「主なるあなたの神を試みてはならない」

この三つの御言葉は、実に「弱い私」にグサリと
突き刺さる言葉です。毎日の生活に追われると、神
様との関係や自分の周りの人との間に立っておられ
るイエス様の姿をついつい見失っている自分がそこ
に居ることに気が付き愕然とします。

たかが禁煙。されど禁煙。

でも、今までどうしてもできなかった「禁煙」を、
40数年果たせなかった「禁煙」が今回はできそう
な気がしています。勿論私一人だけの力では無理で
しょう。

そう、いつも私のそばに居てくださるイエス様の
力をお借りすることになりました。

いいのです。苦しいときの神頼みで・・・

結局、「人間ドック」後の再検査の結果。「胃の生
検」は単に胃潰瘍の跡であり、悪質な細胞は見当ら
ず。心臓は血管の詰り等一切なく「何千人に一人」
の特異な波形を示す心臓であるとのことでした。

聖歌 第452番 (替歌)

神はわが力 わが高きやぐら
タバコやめる時の 近き助けなり

復活祭には彩色した卵を贈る習慣がある。また祭壇には白百合が飾られる。

羽州

復りけり

少年の日の

染卵そめたまご

季節の風

13. 石油

「石油」という言葉は新約聖書にも旧約聖書にもありません。けれど、旧約聖書の舞台は世界一の油田地帯です。聖書の時代はあちこちで、原油の自噴がありました。石油を燃料として使った記事が旧約聖書続編にはあります。

「ところが彼らは火ではなく、粘りけのある水を見つけたと報告してきた。そこで、ネヘミヤは、それをくんで来るように命じた。いけにえが積み上げられたとき、ネヘミヤはその水を、まきとその上のいけにえに振りかけるように、祭司たちに言いつけた。」

(マカバイ記二 1 章 21 節)

「ネヘミヤたちはこれを『ネフタル』と名付けたが、一般には『ネフタイ』と呼ばれている。『ネフタル』とは、清めを意味する言葉である。」

(マカバイ二 1 章 36 節)

ユダヤ人の先祖がペルシャに捕らわれて行ったとき、当時の祭司たちは祭壇の聖火を守るために、涸れ井戸の中に隠しました。そこは、だれにも知られないままになって、かなりの歳月がたちました。ネヘミヤがペルシャ王からユダヤに派遣されたとき、その聖火を手に入れるため祭司の子孫に探させたところ、その古井戸からは聖火の代わりに石油（ネフタイ）が見つかりました。その石油を祭壇に振りかけてみたのです。すると、太陽が祭壇をてらすと、石油のかかった供え物が燃えあがった、ということです。

コノ「ネフタイ」から「ナフサ」という語ができました。ナフサは、原油を蒸留するとき、25℃～200℃で留出する部分のことです。

ネヘミヤが祭壇に振りかけたネフタイにはガソリン成分も含まれていたのでしょうか。ガソリンの発火点は30℃です。砂漠の直射日光の下で発火点以上の温度になったのでしょうか。近くに火がある場合、引火する時の引火点は発火点よりずっと低い温度です。ガソリンスタンドでは絶対タバコを吸ってはなりません。

(『聖書に見られる理科のことは』 文芸社刊より)

(過日、帯広信金で広報誌を読んでいると帯広聖公会の信徒でした大村壬作さんと捷三さんの記事が掲載されていましたので、ここに紹介します)

大村壬作・捷三親子は、二代にわたって首長を務め、芽室町発展の基礎をきずいた。壬作は明治5年山梨県に生まれ、26年に十勝に来た。晩成社に勤めたあと42年に芽室村の収入役に迎えられ、大正14年7月村長に就任、昭和2年8月まで在任した。明治31年に芽室で最初の教育所を開いたほか、産業組合の設立などに尽力した。

三男の捷三は昭和9年から芽室役場に勤務、15年から経済課長を務めていたが、22年4月、新憲法下の第一回公選町長となった。いらい42年まで五期二十年にわたって、戦後の復興と新たな町づくりを進め、高等学校の設立、農村電化、町道の舗装、保育所、上下水道などのインフラを整備、澱粉工場の誘致、メムロスキー場の開設など、町民生活の向上と産業の発展をはかった。39年の市街地大火にあつては、仮設住宅と店舗を翌日から建設、被災地の区画整理、道路や水道の整備を行ない、8月には商店街を再建して、連合大売出し、サーカスなどの復興まつり記念行事を盛大に催した。

(十勝あるき之図景 平成25年1月31日発行より)

絶えず 祈りましょう



心の
平安を保ち
主に
感謝して...

3月の教会委員会の報告・決議

1. 幼稚園運営委員会報告。
2. 幼稚園改築検討委員会報告。
3. イースター礼拝・祝会の確認。
4. 教会バザーを6月初旬とする。

◎教区修養会のご案内

☆日 程：2013年6月21日(金)～23日(日)
☆場 所：ホテル・グリーンパークつるい(釧路・鶴居村)
☆参加費：14,000円
☆講 師：西原廉太司祭(中部教区)
岡谷聖バルナバ教会管理牧師
1962年 京都生まれ
立教大学副学長、聖公会神学院特任教員
世界教会協議会(WCC)中央委員など
著書『聖公会が大切にしてきたもの』
『続・聖公会が大切にしてきたもの』

※部分参加も出来ますので詳細は尾関敏明さんへ

永谷亮神学生が3月2日に聖公会神学院を卒業されました。入学時は一人、2年次では3年生が不在で2年次、3年次の2年間は御一人で後輩神学生の面倒を見てこられたそうです。そのため後輩神学生からとても慕われていて、しかも一人の神学生のための卒業式には礼拝堂を埋め尽くす程の参加者があったとのこと。植松首座主教、広谷校長も驚きと感動を覚えたとのこと。卒論指導教官の西原廉太司祭から励ましの礼拝説教を頂きました。広谷校長も永谷聖職候補生も4月から北海道教区へ戻られます。どうぞ祈りを持ってお迎えください。

☆ルーテル教会の聖木曜日の礼拝『過越の食事の礼拝』に出席してきました。

3月28日午後7時から福音ルーテル帯広教会で行われた『過越の食事の礼拝』に初めて出席してきました。過越の祭りはユダヤ教の行事であるものの、それが食事なのか礼拝なのか全く分からないままの参加でした。



左から、羊の肉、苦菜(クレソン)、オリーブ油、塩(見えませんが)、奥で切っているのは後半で食べた酵母入りのパン

ろうそくの点火で始まり、順次式文に基づいていくのですが、ぶどう酒(ブドウジュース)、種無しパ

ン、苦菜(クレソン)、羊の肉を交互にオリーブ油や塩に浸けて食べ飲み式は進んでいきます。前半はユダヤ教の祭りとしての内容ですが、後半で『最後の晩餐』はかく在りなんという式文になっていきます。「これはあなたがたのために与えるわたしのからだである」「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である」。

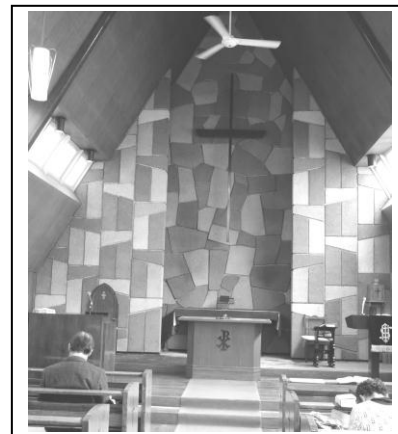
二千年前に思いをはせて、祈りの時を持てたことを大いに感謝しました。しかし、主イエス・キリストが十字架にかかる前夜にこれだけ飲み食いしたのでは、主が弟子たちに起きていなさいと言ったところで満腹で眠たくなって仕方ないかと思いました。

☆『聖金曜日(受苦日)礼拝』に出席しました。

大齋節(2月13日の大齋始日から3月30日迄)最後の礼拝行事が聖金曜日(受苦日)礼拝になります。前日の『最後の晩餐』のあと、ゲッセマネで祈ったのちユダの裏切りでイエスは捕えられ、裁判で十字架刑にされて、ゴルゴダの丘で処刑されます。旧約聖書に記されていたことが、ここに成就されることになります。

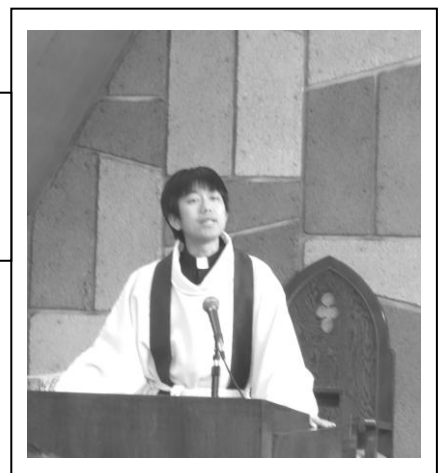
説教は福音ルーテル帯広教会の加納牧師が担当してくださいました。数年前から講壇交換やクリスマスキャロルで一緒に下さったり、『十勝の豆』の販売ではとてもお世話になっています。

加納先生のメッセージは、そのお働きと同じように熱く語られました。同教会からも7名の信徒さんが来会され、共に恵みに与りました。



チャンセルは装飾を全て取り除き、聖卓の白布も外されて、木の十字架が置かれています。

福音ルーテル帯広教会の加納牧師です



編集後記

江戸時代の加賀藩は、武士・町人を問わず上下の身分関係にはかなり厳しいものがありました。その加賀藩の『御算用者（会計処理の役人）』を務めた猪山家に残された『入払帳（家計簿）』を基にした『武士の家計簿「加賀藩御算用者」の幕末維新』（磯田道史著）を読みました。無駄とも言える過剰な？交際費、武士の嫡男のデビューショー“着袴の儀”での馳走には本物が手元不如意で“絵鯛”（絵に描いた餅ではなく鯛）で済ませねばならなかった苦肉の策。しかし、「武士は食わねど高楊枝」ではなく持ち物、私財を売り払ってその難事を見事乗り切った才覚が明治維新の混乱期に見事生かされていきました。海軍省に勤務した際には、芝罘町三番地に三百坪ばかりの家を取得しました。今で言う芝公園三丁目六番地。何と！！『聖アンデレ教会』（東京教区主教座聖堂）です。泉下の猪山家主人はさぞかし驚くことでしょう。でも、お知恵拝借してみたいものです。

編集子